神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

論題	阿部正弘旧蔵本『英国侵犯事略並和解』について
著者	國　雄行
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告―人文科学―　第 18 号
ISSN	0910-9730
刊行年月	1992 年（平成 4 年）3 月
判型	JIS-B5（182mm × 257mm）

〈史料紹介〉阿部正弘旧蔵本『英国侵犯事略並和解』について

國　雄行

十八世紀末、イギリスは中国から大量の茶を輸入していたが、自国内に茶に対抗できる輸出品がなく、支払いは専ら銀で行なわれ、中国に多額の銀が流入する結果となった。イギリスはこの赤字貿易を解消するためインド産のアヘンに目をつけ、中国に向け密輸をはじめた。密輸額は増える一方で清朝は何度もアヘン吸飲禁止令を出したが一向に効果はあがらず、一八三〇年代には銀はイギリスへ逆流をはじめた。

一八三九年道光帝の信任を得て欽差大臣に任命された林則除はアヘンを取り締まるために広州（当時、中国における唯一の開港場）に派遣された。林則除はアヘン厳禁策を実行し、外国商館からアヘンを没収、銷燬した。このような状況下、イギリス人水夫が中国人を撲殺するという事件が発生し、犯人引渡しをめぐる交渉が決裂してアヘン戦争が勃発した。戦況は近代兵器を駆使したイギリス軍に優勢に進み、一八四二年、清国はついに屈して南京条約を締結。香港を割譲、諸港を開港した。ここに西欧国の東アジアにおける不平等条約の第一歩が築かれたのである。(1)

アヘン戦争の情報はオランダ風説書や唐風説書等をとおして徳川幕府に伝えられた。今回はこの情報書類の中でも清国商人が提出した『英国侵犯事略』の『和解』（和訳）を紹介する。

阿部正弘旧蔵『英国侵犯事略並和解』（神奈川県立博物館所蔵）は、現在筑波大学中央図書館に所蔵されている『英国侵犯事略』と『英国侵犯事略和解』を忠実に筆写し、合冊したものと推定される（阿部正弘旧蔵『英国侵犯事略並和解』の『和解』の史料最後部、大通事頴川四郎八、小通事鄭幹輔の印が筑波大所蔵『英国侵犯事略和解』の同二人の黒印を模写していることから推定）。史料の形態は深緑色表紙に漢文五〇丁、挿図八葉、和解四〇丁からなる和綴本である。大きさは縦二六・〇×横一七・八㌢で巻頭右下には阿部正弘蔵書を示す「福山文庫」の朱印（本文末の図を参照）が捺されている。また、漢文、訳文とも一行の字数、一頁の行数とも原本と全く同じであり、若干の誤字と一行の脱文を認めるのみである。挿図は原本に比べ描線が整理、省略され、全体の描法に初発性が薄れ形式化している。本史料の漢文部分の内容は筑波大学中央図書館所蔵の『英夷侵犯紀略』と同内容であるが序言を欠いている。その代わりに『英夷侵犯紀略』にはない英国人物図が描かれている。この序言には、筆者が質問にこたえてオランダ風説書を見たうえ上海を訪れ実見したことに基づいて英国による中国侵犯を著したと記されている。森睦彦氏の研究によれば、『英国侵犯事略』の提出年は弘化元（一八四四）年十二月で、同二年二月に和訳され、提出者は清国商人周靄亭らと判明している。(2)

弘化元年阿部正弘はすでに老中に昇格しており七月には海防掛の

一員ともなっていた。また、和訳がなされた翌二年二月には水野忠邦が罷免され阿部正弘は老中首席の地位についていた。幕閣最要職にある阿部が当時トップシークレットに属する対外情報資料である『英国侵犯事略並和解』の写本を所持していたことは、当然のことと考えられる。

今回紹介するのは『英国侵犯事略並和解』の『和解』の部分であるが、内容は前半において鴻臚寺卿黄爵滋のアヘン厳禁論の奏上、欽差大臣林則除のアヘン取締からはじまり、戦況が年を追って略述され、イギリス全権チャールズ・エリオット（漢文表記は義律）に代わったポティンジャー（漢文表記は僕鼎喳）と清国全権の欽差大臣耆英が南京条約を締結する所まで記されている。後半は南京条約の条文が掲げられており、最後にイギリスの風俗や習慣、英単語和訳等まで述べられている。

なお『和解』部分には掲載されてはないが、漢文部分の挿図八枚を掲載した。

（傍点は筆者）

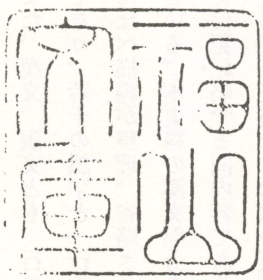
〔注〕

（1）堀川哲男『中国近代の政治と社会』法律文化社、一九八一年。復旦大学歴史系中国近代史教研組編著、菅栄一・加藤祐三監訳『中国近代史』東方書店、一九七六年。

（2）森睦彦「阿片戦争情報としての唐風説書――書誌的考察を主として――」（法政大学史学会『法政史学』二〇号、一九六八年）。

また、この点に関して解題を書くにあたり以下の論文と文献を参考とした。

小西四郎「阿片戦争の我が國に及ぼせる影響」（駒沢大学史学研究室『駒沢史学』創刊号、一九五三年）。王暁秋著、小島晋治監訳『アヘン戦争から辛亥革命』東方書店、一九九一年。



［福山文庫印］

凡例

一、史料中の「ゟ」は「ェ」、「堂」は「た」、「而」は「て」、「ゐ」は「に」、「連」は「れ」に改めた。

一、本史料は筑波大学中央図書館所蔵の原本を忠実に筆者したものであるが、若干原本と異なる字や脱文・脱記号があるので、異字の場合はその横に、脱文・脱記号の場合はその位置に原本の文字・文・記号を記した。

英国侵犯事略和解

読方

一　地名ハ皆朱の△を加ふ
一　官号ハ同断・・・を加ふ
一　姓名ハ同断 ═══ を加ふ
一　賞に逢ひ花翎を戴ものハ則孔雀毛にて中國是を花翎といふ
　其貴重ハ比する事なし

一イキリス等之國ゟ阿片煙を唐國ェ賣弘め元宝銀紋銀に易て海外ェ出し害をなす事不浅候付御史黄爵滋奏聞いたし上意を奉りて唐人共阿片煙を用る事稠敷制禁に及ひ西洋諸國ゟ煙土を商ひ来候ても賣捌之方便無之様成行きイキリス方ニて阿片煙土ハ最利益之品を禁絶ニ成候事聞及ひ是より發端唐國を犯候事

一道光十九年中　欽差両廣の總督部堂鄧　欽差大臣林是迄イキリス等之船ゟ持渡候阿片煙不残取上焼捨猶以来再阿片煙唐國ェ持渡る事差止候故イキリス國より軍兵を起し候処欽差大臣兵威を示し屡奇計を用ひ候付イキリス船数度敗走いたし再ひ敢て廣東を犯さす道光二十年浙江ェ押寄せ候事

一西洋諸國是迄皆於廣東ニ商賣相遂け他所ェ移し通商いたす事許容無之廣東之地ェ船問屋拾三軒相立専ら西洋諸國通商のため設置久敷連綿致候処諸問屋にもイキリス人ェ凡三万貫目之引負不足有之候付イキリス國より銀子取立に事寄せ

大皇帝の前ェ出訴状可致旨を以夫より事起り候事

一道光二十年六月五日浙江定海縣ゟ總督巡撫提督ェ申立の寫謹て申上候當月二日夷船拾余艘定海縣の波戸ェ乗入れ人を遣し書簡を差出し其詞甚た不當私唯今員役を率ひ郷勇を募り城地を守護いたし事危急に依て謹て原書を以入貴覧候何卒

大人急速之取計猶道府ェ通達會辨の命を取持候謹て申上候

一五本柱の夾板船　三艘　長サ弐拾餘丈幅五丈餘ツヽ凡弐百人乗り
一三本柱同　拾三艘　長サ拾餘丈幅三丈餘ツヽ凡百人乗り
一弐本柱同　八艘　長サ五六丈七八丈幅壱丈より七八九尺迄不同凡三四拾人乗り
一車輪煙筒船　弐艘　長サ弐拾餘丈幅弐丈餘ツヽ凡百人乗り

右煙筒船ハ両側ともニ車輪有之船の外ェ掛ケ船中ニ四角の竈を車輪横木の下ニ仕掛け火を竈に燃し候得ハ両脇の車輪轉廻候事早磨の如く其船馳行事風の順逆ニ不拘速なる事飛か如くニ候

一英人於定海縣ニ差出候夷書

大英國特命水師将師爵子伯麦敬く　定海縣主老爺ェ申入候事現に

大英國主之命を奉り事大に権勢あり水陸軍師進て此ニ到り則ち陸ェ上りて定海並所属の諸嶋を押領致へし其嶋の居民手向不致候て本國の将軍大英國☆ハ其身分産業を傷損致間敷候彼廣東の官府林鄧等昨年無道之振舞いたし大英國主を辱め特命正領事義律及ひ英國諸民人安着経営難成候故今本國の軍船弁兵を保護して一応平均すへし依之　老爺何れにも早く定海所属の諸嶋臺場を以一同投降可有之為其當将師統領　老爺の必(安)然ト降参するを招き戮亡を免す但し投降於無之てハ當将師統領速ニ戦法を以奪取へし且書を賚す委員只半時を得て返答いたす此時刻終りて老爺降参無之ハ又當将師統領ェ申越し直に石火矢を放ち嶋地とその臺場を撃取り兵丁を率ひ上陸すへし此段申入候

千八百四十年七月四日即ち
道光二十年六月五日申入ル

定海縣主老爺　披見

一定海縣を失亡いたし候ハ最初夷船俄に定海の鎮臺ェ参候付早速兵を城外に出し防禦の陣を構へ縣主　姚公自分ニ夷船ェ行き渡来之趣意を問ひ船ニ乗りての役人ニ逢ひ候得ハ逆夷ら定海ハ元来彼國ニ属シ候地にて既に會所を建置候所ハ今の城中何の地面則ち其場所にて昨年廣東にて被遂出候より國主大に怒り元地を取り通商可致趣申し遂ニ夷書壱封を出し直に姚公ェ渡候故披見の上其儘船ニ乗り地方ェ帰り夷書を鎮臺ェ出し鎮臺一覧いたし即ち城外ニ出下知して石火矢を打せ夷船も又石火矢を打互に撃合我兵手負て敵対成かたく散々に敗れ鎮臺も手を負ひ城中に引退堅く閉城地を守り米を積て城門を塞き候得共夷人端船より上陸いたし石火矢の城邊に有之を見て其石火矢を取直して打掛け城門を三四發にて打開き鎮臺ハ壱人の遊撃と退て後門より出外三人の遊撃ハ戦死に及ひ縣主並ニ典史ハ河に投て節死いたし是より夷人定海を奪て己か地として掟を以民を撫洋中往返の商船皆彼方に取囲ひ押して通商為致黒夷等ハ姦淫搶奪肆ニ狼藉相働居民害を受る故浙江の官府より天子ェ奏聞有之候事

一奉
上諭を烏爾恭額イキリス船浙江定海縣ェ乗入陸ェ上り騒動に及ふ事を奏す先頃阿片を禁し於廣東省ニ右夷人の交易を断絶するに付度々宣旨を降し船手の総督巡撫等に命して厳敷防御を加ふ所何故聊之僉議もなく木人の如く居なから陸ェ上ケ騒乱に至る段烏爾恭額祝廷彪事一同先ニ六部に渡し急度可申付との其旨を存へし
一六月廿日夷人於浙江ニ又逆書を差出候事

水陸軍師　爵子伯麦　　督理横大軍機師　三戸炮

大英國特命
陸路統領総兵官　布爾利　副軍機師　龍潭

謹て　浙江巡撫烏ェ申入候事今奉　大英國主之命を水陸雄兵を率領して此に到り弥寧波内外海辺の臺場開隘諸海嶋を打取へし昨年廣東の総憲林鄧偽り取阿片烟五拾万七百六十斤國主番銀壱億五百六拾五万を以償ふ事既ニ納得致シ當春に至ても不送越國主ら當年二月十五日使節を以書通に及ひ先数拾万を取り廣東にて茶を買ひ大英國之用を達る所　天朝大臣廣東の官府来使ェ茶を調る銀を不

渡加之國主之使節を罵り辱めて海外ェ追出し大英國ェ遣す書中に
大臣爰ニ在す汝小國不吠之犬大膽ニ使を立て煙料をねたり取當大
臣汝の来使を斬て大清國法を正敷する所来使之罪なきを思ひ赦し
帰して汝等ニ告て令承知之當大臣威を以三山五岳を鎮め計を以四
海九州を取る兵ハ精く糧ハ足る若汝小國外夷之臣節を守さる時ハ
當大臣
聖朝ェ申奏し神兵を提け猛将を率ひ関を出て海ニ下り汝か國を殺尽
し片甲も存間敷趣を述ふ今我主大ニ怒り仁義の師を起し兵六拾万
を發し四海に往て齊く来り仇を報ふ各督撫部院に仰て
天朝に保奏し林鄧弐人を速ニ送て海ニ出し並に寧波廣東福建嶋地ハ
神明共ニ察すへし若従さる時ハ四海乃兵集て徒ニ灾阨を招へし我
國主之不仁にあらす故ニ各巡撫大人ェ申入る八月十日寅時限り
大英國ェ　上意不参候時ハ其日午の時諸所之精兵を率て陸ェ上り
即ち當浙江にも又其日兵を率て石火矢を打直に鎮関に入り沖戦す
へし後悔あるへからす
六月廿日大英國水陸大師書を以　浙江巡撫烏ェ申入り穏に命の
至待へし
一イキリス者當時女王にて聊悖逆之心無之由近頃唐國を犯候ハ去年
於廣東表ニ煙土を焼捨其利潤の基を絶候故金銀をねたり取ため兵
を發し右イキリス國ゟ差遣候元帥十臘國ェ参り病死致候付外ニ将
帥義律を遣し十臘國近所之咭嘩埠と申貧國ェ参り彼地兵ゟ壱人を
銀銭五拾文宛ニて買受何れも剛強の黒鬼尚又年来十臘國ェ参り商
賣いたし居候流民之福建廣東人を組入漢奸として津口乗筋聞合せ
且漢字反訳等致候趣承候事
一浙江省にて七月初旬間者壱人搦取相糺候処廣東人ニてイキリス此
度騒乱ニ及候ハ去年林鄧二大人於廣東ニ焼草を筏に乗せ火を掛て
推流し夷船を焼払候故國主怨怒之上子伯麦を遣當ェ差越し復讐
致候由我國主ゟ差遣し大黄茶買入として壱万之銀銭持越候を再度
國主ゟ　國ェ遣し黒鬼弐千人を抱入候其剛強尋常ならす専ら争戦
を能いたし今船中ニ四ヶ國之夷人罷在此外ニ又六ヶ國の夷人ハ未
た参着不致打勝候得ハ六ヶ國ハ不参若打負候得ハ皆参集致へし大
船ハ千人ツヽ乗組石火矢四拾五挺鎗弐百本ツヽ乗せ小船ハ五百人
乗り石火矢弐拾八挺鎗百本宛乗候趣尤申分之實否ハ相知不申候
一道光二十年九月又夷書を差出候事
大英國特命水陸督署将帥爵子伯麦掛合申事然ハ先達て本國特命大
臣ェ掛合ニ及ひ　大清宰相ェ罷越其段申立評議有之間本國軍兵交
戦致間敷旨ニ付當将帥約諾を守り戦ひ相留候得共寧波操権之官府
兼々定海の居民ェ申會強く差図致し食物等賣買不為致其上先達て
實僕壱人捕押へ當月廿一日無法之徒本國武官安突徳従者と兵器も
不帯地方遊行致候を見掛即時ニ引捕へ　大人之前ェ差出し候趣承
知致し弥相違無之候自分大國と称し右等之所為ハ有間敷事ニ候依
之當将ゟ帥安突徳等僕従並ニ前段實僕等引取候故早速可差返候若
壱人ニても聊傷害有之上ハ本國弁兵急度報讐いたし竟に罪なき者
迄難儀俄に及ひ一統敗亡可有之候此段申入候

部院貴所披覧　英國千八四十年　月　日申述
提督
一浙江巡撫島返答申述事當月廿七日鎮海営の參將より將帥貴前小船
提督祝
を以候差越候書簡相達し一同致披見候今
大皇帝の欽差を奉り宰相兵部尚書右都御史両江総督紅帶子皇族ハ紅の帶を用ゆ
伊　欽派太子少保乾清門侍衛福建提督余參着致し吟味取計候付
當部院提督より早速来書差出し令披見候処書中申所之實僕並ニ武
官安突徳等何連も爰元ニ罷在候旦
天朝ゟ捕置人々安突徳等数人而已ならす外追々虜之黒夷人弐拾餘人
白英婦壱人丁寧に待し決て傷害不致候今度来簡之通り安突徳等引
取度候ハヽ貴所將帥先定海を返し並ニ船之不残遠く引払可申其上
ハ　欽差大臣伊懇に
大皇帝の大恩奏し安突徳等差返へし且先達書中ニ望所和議通商之儀
も欽差大臣伊是亦代りて懇ニ恩を願ひ双方兵を止め太平之福を受
る事全美ニハ無之哉　欽差大臣伊當朝之宰相則ち
天子一家之人
大皇帝の特派を蒙り罷越て此事を取扱ふ別官員と不同貴所將帥能情
理を量り利害の如何なるを審度可有之候此段將帥貴所ェ申述所如
件
一夷船天津湊ェ參り訴状願差出し軍兵相罷め通商いたし度趣宰相穆
中堂其ため奏聞之上
恩を被乞候然処浙江福建ェ罷在候夷船ハ矢張乱妨いたし忽然と令
を出して民を慰め又ハ俄ニ書を賚して和好を望み来船も或ハ多く
又ハ少く不断往辺徘徊致候趣承及ひ候廣東表ニも夷船罷在頭領義
律より琦中堂ェ保奏相頼候処琦中堂
上意を不請香港の地方夷人ェ相渡し住居通商被免候趣承候事
一奉
上諭を追て阿片煙海内ニ流布いたすニ付林則除ェ命し廣東津ェ遣し
鄧廷楨ェ會合して取計事ハ大地を取締其源を断絶いたす儀其地の
時宜を以取計可致処右吟味之後自國ニ而奸民之制治不行届他邦よ
り渡来之根元断絶不致に今イキリス船海岸所々ェ徘徊不止征討之
糧を費し師を労する事全林則除之計不束故之儀に付林則除鄧廷楨
六郡に渡し厳敷議処を加ふ林則除東師ニ赴き六郡の評議を待へし
尚又今度イキリス人より捧る書面訴状朕其情理調鑑之上ハ決て重
く征勦を加へす右役目之儀ハ別簾大臣ェ命する所取計の詮なく殊
騒動に及ひ國を誤民を病す條甚た不容易急度處治すへし尤夷人之
訴に依り俄に厳議するにあらす其旨を存へし
一道光二十一年奉
上諭を先頃イキリス人浙江より廣東ェ帰り又反逆不及墓場を乗取る
に付奕山ニ命して靖逆將軍とし隆文楊芳を參賛大臣として諸手の
精兵を催し罪を挙て征討致す所琦善の奏聞ニイキリス人沙角大角
の臺場献し又人を浙江ェ遣し定海縣を可返懇情ニより望所を許し
暫く猶予いたす趣其奏を覧て奇怪不過之不計も琦善法懦にして能
なく竟ニ比ニ至り英夷両度浙江廣東おいて逆意を震ひ城地砲臺を

攻取り我鎮将大員を傷め生霊を悩し郡邑を驚す大逆不道其の儘容し置加たく定海を返し砲臺を献する事信用すへからす仮令地を返も是我故土を復し害を被る官兵難に逢ふ國人牙を咀て仇を同する事神人共憤所也若痛く征勦を加すんは何を以天討を伸國威を示さんや奕山隆文ハ路を急て進發し速ニ廣東ェ赴き我義師を整へ此醜類を殲すへし首従之徒並ニ夷人に通る漢奸ハ囚車を以京師ェ送り法を尽して統治すへし海岸諸省の将軍総督巡撫等ニおいて念を入れ厳敷防き来る者ハ撃取り片帆も帰さす一同膚功を立へし琦善事其身重任を勤め屢

諭旨を奉りて夷書受取間敷処比度大膽ニ奏摺を添其呈書を上り代て相願段如何之心得なる哉且奏聞ニ固城之将軍副都統巡撫並ニ学政司道知府知縣共均敷會議致と称し何故摺内に阿克精阿恰良等之連名無之哉奏聞の所顕不實あり琦善事大学士を放し花翎を秩き猶六郡に渡し厳敷議処を加ふ者其旨を存へし

一又奉

諭旨を琦善事猥ニ香港を与へ自儘に通商を許し大膽に逆夷ニ代り恩を求め恩を障き國を誤り天良を喪失す琦善事職を剥き搦至て副都統英隆並ニ恰良ェ申付て同知州壱人を撰警固して京師ェ参り厳敷吟味を遂け所有琦善家産即時ニ取上申付もの其旨を存へし

一廣東表之儀探索致候処四月朔日夷船押寄せ二日子時ニ合戦ニ約定いたし将軍楊下知を傳へ先軍を始め並ニ於諸所ニ陣を居へ堅く守り楊候を右翼となして城を離事拾五里花塘ニ向ふ提督張ハ兵を率ひ西の砲臺を中権とし隆参賛ハ兵を率ひて東の砲臺を左翼とし余ハ水兵を以小船に乗海上に出て朔日亥刻より始め三本柱の大船壱艘又火輪船壱艘端船三艘を焼祁尚書ハ水軍を領し吐水柱帆柱より水を吐て走り行の大船壱艘を焼提督張ハ石火矢を放ち　三本柱の船壱艘大小の夷船七艘を焼外ニ三本柱の大船壱艘参居候処小船を以取囲ひ救去候東手ニ火輪船壱艘参り省河ニ乗込可申処度々被焚立中途ゟ逃去海中ェ落たる夷人数しれす朔日亥刻より二日丑刻迄夷人七人生捕り官兵の手より漢奸八人討取りイキリス大将義律ハ初大船ニ居候処火輪船ェ逃忍ひ惜哉手ニ入す若押来て復讐も難斗格別ニ防方之手當いたし諸臺場等堅固に相尋(尋)り不時之煩ひ無之候事

一五月五日夷人又々廣東ェ攻寄セ地方の漢奸内応いたし官兵利を失い臺場を被取夷人の勢ひ至て烈敷依之又和議之説ニ至り候六月中イキリス新参の頭領大将僕鼎喳夷書式弐ヶ條を捧け一ツハ義律事役目を取上帰國為致其跡右之者引受取斗候事一ツハ仕法を立昨年七月於天津ニ申立候ヶ條之通り取斗可申若廣東の大役にて取扱相成兼候ハヽ即ち船を北方ェ分け再ひ宰相ェ願ひ評議可致候事七月十日福建の厦門また夷人より被奪取押領いたし候事

一定海域を夷人より差返し和議通商相望候得共許容無之候故道光二十一年八月十二日又々定海を攻め官兵将弁勇を震ひ六日之間大戦いたし候得共官兵の石火矢不残赤く焼け火薬積込難成猶死を捨血戦有之候ても何分漢奸多くイキリスの導引いたし漢奸ハ前ニ備へ夷人ハ後に立皮梯を以山嶺を乗越我軍ゟ一起討取候得ハ又一起跡

ニ継寄来領兵大将ハ何連も夷砲に被打陣亡いたし没落ニ及ひ候故
夷人又々定海縣を取候事
一八月十六日より廿三日迄夷船台湾を侵し続て数日戦ひ大小の夷船
数艘打破り白英五人紅夷五人黒夷弐拾三人を殺し黒夷百三拾三人
生捕り石火矢拾挺七千九百斤ゟ弐千斤迄不同石火矢玉焼玉等奪取
り夷書図冊等掠取候図中山海の様子畫候物五拾壱枚夷書中ニハ城
地人物車馬之形等畫有之候事
一八月廿六日鎮海の敗失ニ而欽差大臣裕ハ難に殉ふて陣亡致候事
一道光廿二年四月九日浙江之乍浦ェ夷人攻入数日城中江滞居自分ニ
引払申候五月十一日上海の呉淞口にて大戦有之提督陳化成石火矢
に被打戦死いたし兵将等ハ敗散して呉淞口の臺場を被取是ゟ上海
の地方夷人より手もなく被取候事
一五月廿九日寶山縣城外ニ逆夷偽之制札を掛け候事
大英國大元帥呉官密其方呉淞口之民人等ェ申諭候事本國の商船廣
東之者三人を誤候故　清國ゟ通商を不許事既ニ五ヶ年に及ふ依之
我に命して和議を求る所只我を欺き終ニ　朝廷ェ保奏せす夫故我
主官を遣し國ェ来て悉く奸悪を殺す所也其方百姓共仰天乱走致間
敷其侭安堵いたし耕作恐怖あるへからす若我黒鬼猥に横行有之ニ
おいてハ其方衆民共ゟ打取へし聊も其罪を咎す十日中三軍を整へ
再ひ北京ェ赴き和睦可致其方百姓共懸念致へからす為其申渡之
一道光廿二年五月奉
上諭を奕経等ゟ奏聞す定海縣の兵勇度々仇を復し大小の夷船焼払一
件申立る所八日壮勇の頭王建功等定海縣の湊沖にて逆夷を撃取り
白成位等焼玉を投掛夷船を焼立て右逆夷共被焼て水ニ落入王建功
郷勇民人を引連船を奪取乗帰り並ニ夷長丁特儀の第を打倒し首を
取水勇沈仁足等白英壱人を打取り委員鄭鼎臣等火薬積乗後手より
兵を進て牽制し十二日風火大小起る副将鄭宗凱遊撃池建功ハ守備
徐楨寶ェ下知して火攻船七拾艘を以兵勇を引従ひ船を逆夷の大船
ェ近寄セ潜に焼玉を放ち一連ニ逆夷の船を焼立我船ハ並て跡より
進ミ炎を揚け四方ゟ攻掛け鬨聲を發候処逆船多く焼捨溺死撃取等
凡三百餘人弐本柱の大船を半焼立三本柱の大船三艘の両側を焼大
帆柱弐本焼杉大の端船四艘焼捨火薬夷帽權の杉船板イキリス人火
防之水桶等奪取営中ェ送り實験致たる趣しかりハ右逆夷の徘徊
乱妨を未た征討不致といへとも今被焼立たる上ハ船の堅固石火矢
の利器も頼に足らす然時ハ将軍参賛並ニ海岸固之役ニ所々皆火攻
の船を備へ図を見合取計ニおいては右逆夷共必定辟易して再ひ窺
ひ襲ふ間敷今度夷船焼打に付最出精之副将鄭宗凱ハ福建福寧鎮の
総兵に陞め池建功ハ参将に取立缺を待て職を授く一同花翎を許し
委員鄭鼎臣ハ前度夷船数艘を焼捨今度又勇を震ひ功を立能相励ニ
付褒美して四品項帯並ニ花翎を許し右将軍等調度行届に付奕経事
賞して双眼花翎を復し文蔚事ハ賞して頭品頂帯を復し特依順齊慎
ハ一同六郡ニ渡し宜敷沙汰すへし右に携り出精し文武員弁並ニ兵
丁水勇郷勇等は皆其将軍参賛に命して明辨奏聞之上朕の施恩を待
其旨を存へし

一六月三日先ニ火輪船弐艘江口圖山関の地方江乗入候故官兵石火矢を打立夷人数拾人打取候処夷船ハ砲力の不及る場所ェ船撃致し無程大小の夷船数艘入込四日ゟ十三日迄数拾艘ニなり圖山関を打破り十四日長江ェ乗入れ鎮江府ェ参り陸ェ上り皮梯を以城を越し門を開百姓を逃し満州営ニ至り満兵を殺戮いたし十六日夷船を集め南京ェ乗入省城を窺ひ尚夷船弐艘を残し鎮江を守らせ昼は陸ェ上り夜ハ船ェ帰り鎮江揚州両府の居民不残逃去候付塩徒土匪とも乱に乗して火を掛家財等劫掠いたし候事

一七月九日　欽差大臣耆英　乍浦副都統伊里希　両江総督牛鑑　江蘇巡撫程矞采連名を以進呈仕候形成甚た危く呼吸之間も事端に成候付身命を投ち夷人の望ニ隨ひ民命を救ひ

上意を請ひ私等を重く罪名ニ被仰付度恭摺を捧け奏聞仕仰て

聖鑑を奉祈候事然ハ私等當月八日夷勢を取扱候次第恭摺を以馳奏仕候當七日右夷人願望之ヶ條書付を認委員塔芬希ェ渡し差越候付私等一同披き見候処一ヶ條ハ銀銭弐千百万文取度當年先六百万文を渡し其餘ハ年割を以相渡可申事弐ヶ條ハ香港を請取市場といたし並ニ廣東福州厦門寧波上海等之所ニ而交易致度望之事三ヶ條ハ中國の官員と平等之礼儀を用度事其外猶願有之共大概比三ヶ條之外ニ越る事無之素ゟ其願通りに成行候得ハ永遠和好を結ひ決て再ひ兵端を起間敷旨急度申立若願通不相叶時ハ早速合戦を始め且又別省ニ赴き騒動可致趣私等會合酌議之上巨細返答可致処八日戌刻逆夷とも壽春之兵を調へ防勤可致と聞誤り忽ち紅簇ニ換へ其上鍾山之上ニ大砲を備へ翌朝石火矢を打出し城攻いたすと申觸し其有様其烈敷私とも江寧省城を調子弁兵を集め割付防方致候而も周囲五拾餘里の所故兵力不足具ハ諸手の官兵を促しても皆勢を被挫鋭気不立迚も固の頼ニ成兼殊ニ鍾山ハ省會ニ近く右夷人下ニ向て打出し候時ハ弥以支兼加之民風柔弱にして此事を聞及ひ皆々驚て男女数万人私等之役所ェ参り道を遮て啼呼ひ縋て救民を願ひ私等吟味仕候処右夷人侵犯以来廣東より福建ニ赴き浙江を経て江南に入る其度毎ニ将に命して師を出といへとも都て其餘を挫事能わす近頃又大ニ蛮夷を集め兵船八拾余艘専ら京口に攻寄長江ニ留り我南北の衝要を断其上数多乗入て直ニ金陵に逼り危急旦夕ニ至る私等實に急延の模様見聞いたし居若又偏固ニ取計候時ハ万の一も危城保かたく私等の敗没ハ勿論惜み足らす併万一根本揺動致ニおいてハ京口塞て不通而已ならす江西安徽河北の諸省會ェ夷人帆を揚て進發可致将又江都縣ゟ探索いたし候処夷船若戦て不勝時ハ漢奸を遣し高堰に穴を明ヶ可申由弥實情なる時ハ禍患不容易次第ニ至り私等之勘考にてハ右夷人願望之ヶ條利を貪る事無厭と申而も其所存ハ市場を構へ通商賣買致迄ニ而更ニ異謀を企る事無之只兵を連禍を結流毒最深く覚候然時ハ先願之趣を許し江南の大局を保可申今既ニ右夷人ェ掛合盟約を極め果して禍を悔ひ兵を戢ニおいてハ早速偽定致所のヶ條決談可致一面ニ奏明して

恩を奉乞若又犬羊之性ニ而猶馴伏不致候ハヽ私等将士を励し嬰城を固く守り成敗利鈍ハ逆め観る所ニあらす併私等均く

聖恩を蒙り重任を勤威を宣て寇を殄さす又大膽ニ取計其罪挙て数へかたし願くハ私等を以一同重く罪従ふへし依而會摺を以馳奏仕り伏て

皇上の聖鑑を奉乞私等惶恐命を待謹而奏す

一軍機大臣ゟ執達す道光廿二年七月十三日奉

上諭を耆英等ゟ形勢甚た急迫に付暫く願所を許たる事を奏する一摺前ニ旨を以て耆英等に便宜行事を命し逕ニ制さる所ハ元より民命を保ため之事也茲に奏称する所右夷人ヶ條書の願を以費をねたり並調兵防勦之説を聞て又簇を換へ砲を構へ江南之民風柔弱にして男女数万號呼して縋り願ふニ依右大臣等其請ふ事を許す等の趣奏摺を　覧て憤恨に堪す併江南数百万之人民一度合戦ニ及てハ安危保かたき故既ニ大臣先承引する所也朕も又民命を以重くすへし只申所當年先銀銭六百万文を渡し何様ニも仕法を以皆後可致事香港ハ只常借を許し厦門寧波上海等之所ニも亦交易を許す尤其来往通商を許して久住巣穴と致事ハ許さす又福州之所ハ陸路之地方且山径叢雑にして商旅不便なるへし福建省ハ既ニ厦門ェ通商すれハ福州ハ願ふへからす耆英等ニ命して再ひ商議を加へ福州一ヶ所を除へし右夷人共願通ニ成時ハ重而兵端を發間敷旨を申す今許容を得而ハ右夷人如何して長江を退　諸省の夷船如何して退散帰國いたす事右大臣等詰度誠實評定致し永く兵端を杜き聊も烏乱にして徒に目前を願て猶不了之局を成すへからす所請重く罪ニ従ふ儀ハ其沙汰ニ不及依之六百里加急を以諭す所也其旨を存へし

双方和議約定の條々

今度　大清

大皇帝　大英　君主近来不和之端を解き萌を止度為其評定を遂永遠の和約を致に付　大清

大皇帝派命の　欽差便宜行事大臣

太子少保鎮守廣東廣州将軍宗室　耆英

頭品頂戴花翎前閣督部堂乍浦副都統伊里布

大英伊耳蘭等國　君主特派の欽奉全権公使大臣英國取属河等處三等将軍世襲男僕鼎喳双方共各奉る所之

上論便宜行事及ひ　勅論全権之命を以互ニ一覧を遂け一統當善之事に付即ち評決之ヶ條左之通ニ書出す

一以後ハ　大清

大皇帝　大英　君主永く和平を存し所属之華英人民双方互ニ友睦いたし銘々他國に居住致候者ハ其國の保佑を受身上全安之事

一自今以後

大皇帝恩許して　大英國之人民所属之家族を携　大清の海岸廣州福州厦門寧波上海等五ヶ所之湊ェ滞在いたし通商交易致事差構無之且　大英　君主より領事副領事等之官を立右五ヶ所之城下ェ差置通商之儀為取計其所之地方官ト公文往来いたし英人ェ申付候段ニ書出振合之通運上諸口銭之雑費無相違為差出可申事

一大英之商船遠路之波濤を乗渡間之破損有之修覆可致候付右之場所船付にて一ヶ所相渡し　船修理並ニ入用之物為貯置可申此度

張紙

此間文言連続致兼定而
脱文可有之奉存候

大皇帝承允之上銀銭六百万円文を以元代相償候事

一総而　大英國之民廣東之交易是迄ハ會所有之問屋を定め公行と唱へ候者取捌候処今度
大皇帝承允之上以後ハ是迄之振合ニ不拘総而英商諸湊ェ参り商賣致候者ハ何商人ニ不限勝手ニ交易可致事将又是迄定置候問屋共之内追々英商ゟ引負多く相嵩済之方便無之候付今評議之上銀銭三百万文問屋引負之商と相定承允之上唐國官所より償候事

一大清　欽命大臣等　大英の官民人等ェ對し押而不直之取斗致候付軍士を向道理申述今度評議之上水陸軍費銀銭千弐百万文
大皇帝承允之上償可申尤道光廿一年六月十五日以来諸城を贖候付英國ェ受取候銀銭之分　大英國全権公使大臣　君主之ため取斗数之通差引候儀承知いたし候事

一右之三ヶ條約定銀高都合弐千百万文何様之年割にて皆済可致積り左之通ニ候當節銀銭六百万文相渡候事

癸卯年六月　三百万文相渡　十二月　三百万文相渡

合六百万文

甲辰年六月　貳百五拾万文相渡　十二月　弐百五拾万文相渡

合五百万文

己巳年六月　貳百万文相渡　十二月　弐百万文相渡

合四百文

壬寅年ゟ己巳年迄都合銀銭弐千百万文相渡す若其期限に至り渡不足有之節ハ壱ヶ年百文に付五文宛利息相加候様相極置候事

一総而　大英國之者本國属國之差別なく軍民共當時唐國支配之諸所にて戒置候者ハ大清大皇帝ゟ赦免之事

一総而唐國之者英人押領之場所ェ参り居住之者或ハ英人と往来致候者或ハ僕従となり英國官人より被使候者一統
大皇帝の　御旨を降し天下ニ觸渡候所恩許之上不残赦免致し且又唐國之人英國之事ニ付禁獄に逢ひ難儀之ものハ亦恩釈を以差赦候事

一第二ヶ條ニ有之候奥行の英國商人居住通商之廣州等五ヶ所にて可差出津口出入荷物運上口銭之儀ハ誠實ニ規則相定六部より觸達し英國より定例之通可差出猶又英國荷持何之湊ニ而定式之運上差出候後唐國商人より諸州ェ運出候途中通行の運上役所にて過分之運上不差出直段積を以何程之高ハ運上いたし候儀定相極其分ニ過申間敷事

一英國より唐國ェ参居候総管大官より　大清内外之大臣と文書往来致候ニハ照會の文字相用ひ英國属官ハ申陳之文字を用ひ大官ゟ批覆いたし候ニハ札行の文字を用ゆ双方属官より往来致にハ互に相對照會の文字相用ひ若双方商人ゟ官所ェ申立候儀定式之外ハ禀明の文字相用可然段議定いたし置候事

一大清

大皇帝之許容を奉りて約定之箇條取斗可申且此度六百万文相渡候上ハ　大英水陸軍士早速江寧京口等を引払江南ニ而も決て再ひ唐國諸省商人の交易障致間敷鎮海の招寶山も引渡可申尤定海縣の舟山海嶋厦門之古浪嶼小嶋其儘英國ェ預け暫く陣所ニいたし約定通り不残銀銭相渡猶諸湊の英人商賣相整候上當所之軍士引払重而押領致間敷事右之ヶ條何連も和議約定ニ候大臣等ゟ銘ニ　大清大皇帝　大英　君主ェ奏聞之上双方互ニ宸筆之批評を講候而直ニ取換し双方ェ壱冊宛取置信守の証可致事尤両國遥ニ相隔居一時に到着不致候故別段弐冊仕立先　大清便宜行事大臣等　英國欽奉全権公使大臣ゟ各　君主之ため事を定め関防即章を用壱冊ツヽ証拠ニ取置即日約定書載之通無滞取斗相済約定相極候事

道光二十二年七月廿四日即ち英國記年千八百四十二年八月廿八日於江寧省に會行

英國全権使僕鼎喳印

大清欽差大臣便宜行事耆英

欽差大臣関防

清文同

西江総督部堂　牛鑑　各関防を用

江蘇巡撫部院　程矞采

乍浦副都統紅帶子伊里布

一和議双方納得之上諸所之夷船追々引拂民心安堵いたし夫々故郷ニ帰り渡世いたし従是太　平ニ御座候

一イキリス者則紅毛一統ニにて紅毛とハ古来之通称後年ニ至りイキリスゟ併呑征服いたしイキリス之一統ニ属し當時イキリス紅毛と一圓ニ相成両國ニハ無之今代の國王ハ女主ニ而年齢弐拾壱歳在位治國いたし女主之夫ハ美貌文雅にして國政ニハ不相拘趣ニ御座候総而女主視朝之節ハ其夫側ニ侍立致英國之禮ニ而手を嗅候事を尊敬ニいたし都而百官朝勤之節ハ先片膝を跪き女主之手を以鼻ニ嗅候上奏事致し文官ハ青衣を着武官ハ紅衣を着し肩飾並ニ帽子皆金を以拵へ品級之大小を列申候

一大西洋ハ西牛化州至大之國ニ而凡一切之國名大西洋に属し阿蘭陀國も其内に属し総名を西洋と唱へ阿蘭陀とイキリス者各一國ニ而勿論阿蘭陀ハイキリス〻弱くイキリス人を見候得ハ自然と恐怖いたし申候

（一イキリス國の計数並目算聊其略を記申候）

壱	弐	三	四	五	六	七	八	九	拾
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
拾壱	拾弐	拾三	拾四	拾五	拾六	拾七	拾八	拾九	弐拾
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

其余ハ此小準會得仕候　百　千　万

100　1000　10000

一イキリス言葉聊数言を記申候阿蘭陀通詞ェ尋候得ハ相知可申候

壱	弐	三	四	五
ヲン	ト	テリイ	フヲ	ファーハン
六	七	八	九	拾
スイスイヽ	スイウエン	ハ	ナン	テイン
拾壱				
ラウエン				
拾弐	拾三	拾四	拾五	拾六
トアイル	テリテイン	フオテイン	ファーハン	スイテイン
拾七	拾八	拾九	弐拾	
スイウエンテイン	ハテイン	ナンテイン	トテイン	

余ハ皆此に準申候　百　千　万

ヲンハイデンテエ　ヲンテリイ　ヲンマリン

烟	たはこ呑	茶を呑	茶碗
テバイキヤ	リテスイクキヤ	テリンキヤ	キヤペ
座			
サダン			

寝	天	地	雨
スイリンペ	スイキヤ	ランラン	ヲンデン
燈火			
ランタ			

燈篭	是	無	女
ランタリン	エース	ナア	ワアメン

右の假名文字ハ皆蘇州之當音ニ御座候通詞ェ尋候得ハ相知可申候

一當時上海辺之イキリス人通商交易之儀ハ悉く先達而於鎮江に和議約定之通相守上海湊ェ當時夷官壱人罷在名を叭嘓盧と申上海ェ居住いたし居候夷人は只イキリスと花岐両國之人にて賣買として黄浦湊ェ往来之夷船ハ或ハ多く又ハ少く平常四五艘參居近頃上海の地方江船問屋弐軒相立素〻夷人持渡之荷物ハ運上差出し代御物替いたし申候新に運上名目定め有之候其外鬼子とも荷物持渡候を英商と唱へ候由銘々人家を借住居いたし人数之多少ハ限無之夷法にて七日目に礼拝いたし其日ハ商賣相休其礼拝と申事ハ凡上下大小の鬼子共皆夷官の役所ェ罷越着列を記し候て夷官の故事講釈を聴聞いたし夷民訓導之由御座候

一鎮海城ニも夷官を差越し名を盧伯旦と申商賣向ハ一切上海同様にて尤商物ハ少く賣捌手狭之由定海を常居にいたし文武の夷官数多

罷居候船も多く都而彼國ゟ仕出候船者直に定海ェ参り又ハ廣東ェ参りて後定海ェ罷越夷官の差図を請て諸湊ェ分り交易いたし候由ニ御座候

一廣東表ハ是迄之通都而西洋一切之諸國何れも廣東ェ集申候得共イキリス花岐両國ハ諸湊ェ参り賣買いたし其余之諸國者先規之通廣東而已にて外湊ェハ不罷越廣東ェ出張之夷官総頭僕鼎喳郭士律両人ニ而決断いたし候由此外諸國之委敷様子者蘇州ゟ廣東余程遠く相隔居候付明細ニ相分兼申候

一於上海ニ見物致且様子承候処夷人来船之物ハ呉羅服れへるへとわん羅紗金巾而已にて大黄茶白糸等ニ而交易いたし其外の物ハ相好不申若又多分に相成候時ハ元寳銀足赤金ニ易申候夷人共之儀は平常決て外出不致用事有し節罷出市中通行にハ是非通詞差添聊も居民ェ狼藉等不致差出入混雑之儀出来又ハ商賣方不直之儀有之節ハ夷官ェ申聞仕置取斗申候右船問屋相立候を英商公正行と唱へ内ニハ夷人並家族罷在候手寄を以通詞ェ相頼ミ同道ニ而見物致候処至極奇麗ニいたし家族共ハ二階ニ居候得共罷越委敷見物相成兼硝子障子内ニ居候を漸く覧候処立派之大駕篭有之出入之時々夷女を乗せ又歩行ニ而市中ェ出候にハ夷男是非手を挽同道いたし候阿片烟之儀ハ不残定海ニ而交易致し上海ニ而ハ商賣不致當時上海之夷人と商賣いたし候者ハ相応ニ手當引合候付人々相悦申候

一火輪船之儀ハ十月晦日壱艘上海ェ着船致候付通詞同道ニ而罷越度候得共官兵之船故乗入見物等相成不申由申聞候十一月二日直ニ出船致し相尋候処右船ハ専ら音信通路ニ平常ハ相用候由廣東ゟ上海ェ参候ニハ風之順逆ニ不拘僅七日走りイキリス國ゟ参候ニハ十五日走候由行走ハ飛か如くと申候見受候火輪船之夷兵ハ皆紅色の短衣浅黄の股引を着し天窓ニハ印帽子を被り何れも鉄砲を持内壱人ハ差配いたし小頭官之由体ニハ花國の短衣を着肩ニハ金拵之如意頭を附花國の股引頭ニハ黒帽子を被り黒皮先小の沓を履其服色行状別ニ図面を絵申候火輪船ハ毎月三四度上海ェ参候趣ニ御座候

一上海湊ェ繋居候商賣之夷船通詞同道ニ而罷越船ニ乗候処至て奇麗ニ有之中段ニ硝子障子立腰掛机等飾付中程之上に明窓を拵へ硝子を埋其中ニ道具を仕込形ハ尺の如く名を量天尺と申象牙を以造たる様ニ相見上に寸尺の文字を書有之候得共相分不申寒暑風雨其尺を見て相知れ候由申聞候

一イキリス人の形服体等左ニ絵又外ニ船図を写し考訂ニ満申候

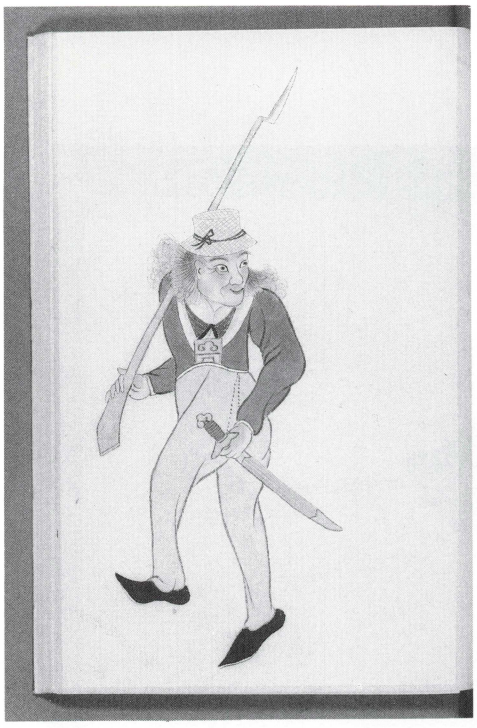
右風説書之通和解差上申候以上

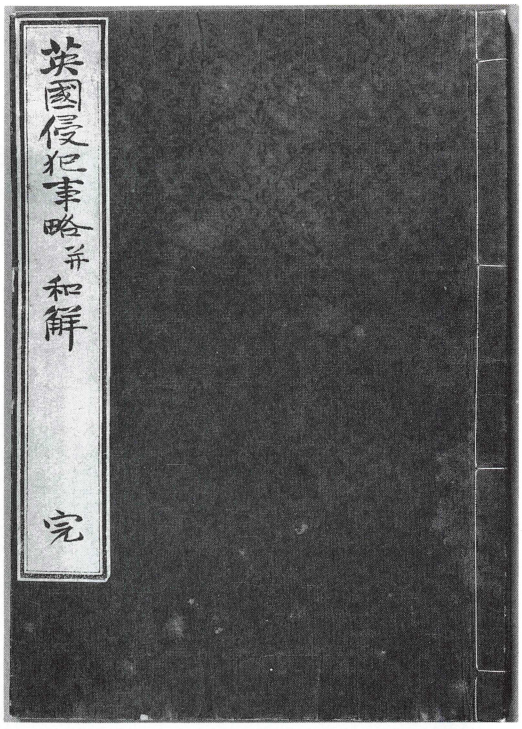
大通事

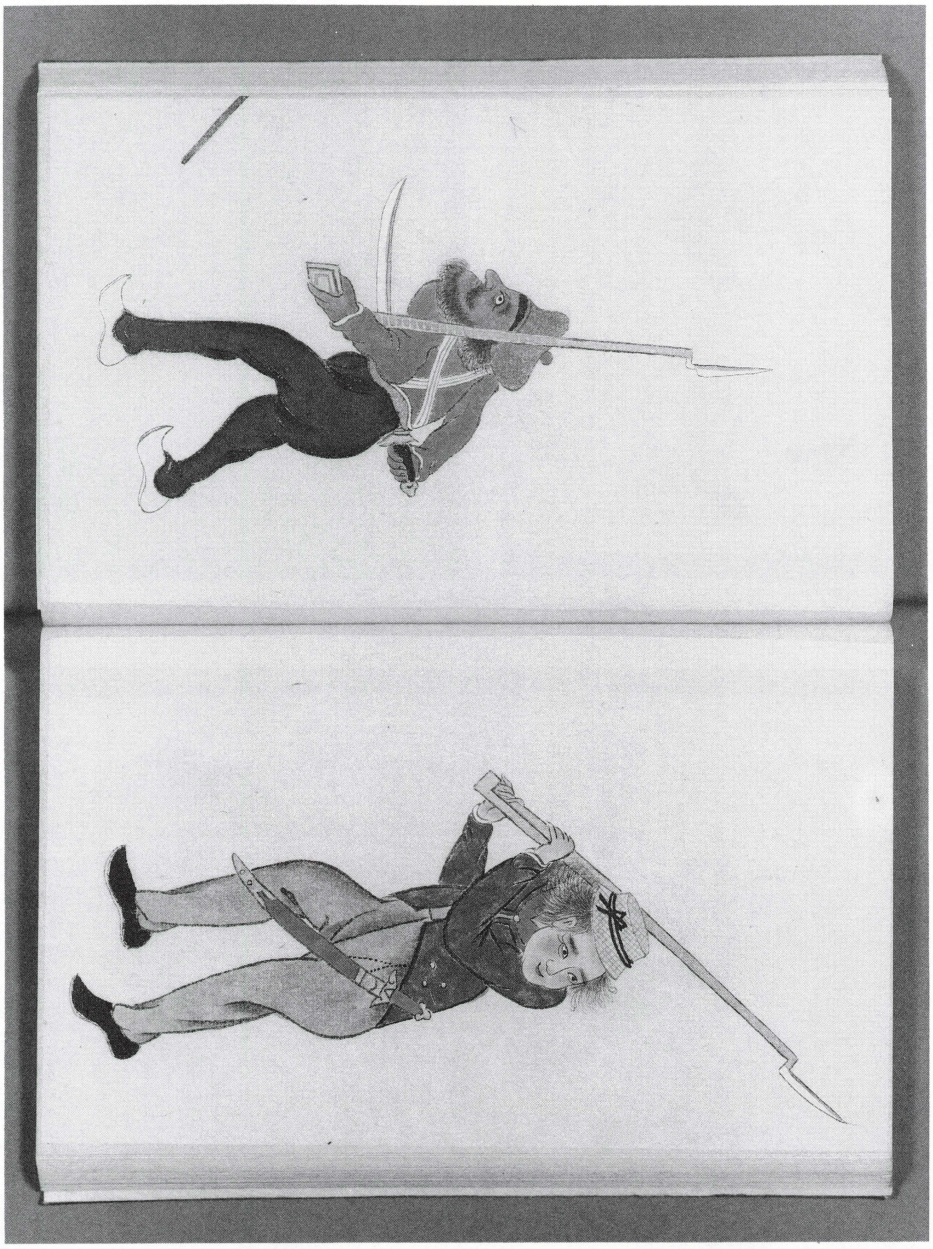
頴川四郎八

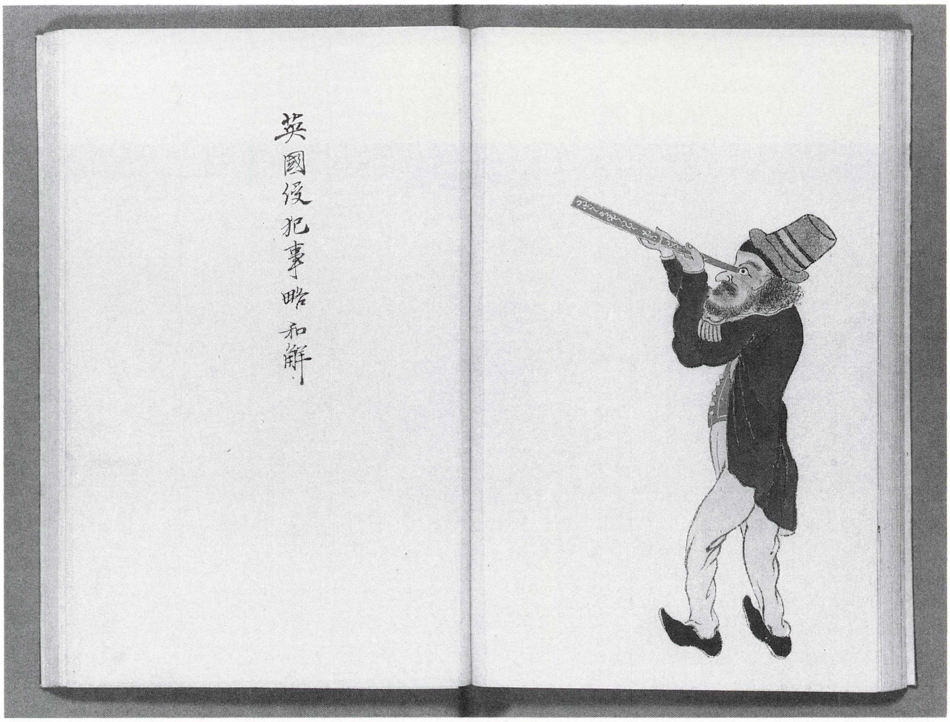
小通事

鄭　幹輔

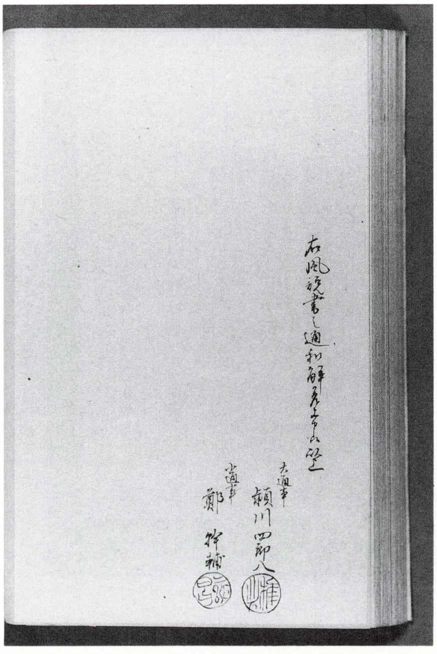



英國侵犯事略并和解
完

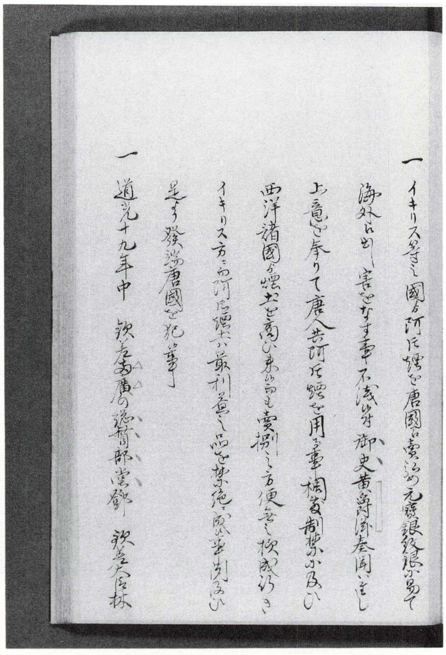




英國侵犯事略 和解



右風說書之通和解差上申候
大通事 頼川四郎八
通事 鄭 幹輔



一 イキリス并國ゟ阿片を唐國へ賣込元寶銀紋銀ニ易て
海外ニ出し害をなす事不浅ニ付御史黄爵滋奏聞いたし
上意を奉りて唐人共阿片を用る事嚴禁ニ及ひ
西洋諸國ゟ阿片を商ひ来候も賣捌之方便を失ひ成行き
イキリス方ニ而阿片之儀ハ最利益之品を禁絶ニ成閉口ニ及ひ
是ゟ發端唐國を犯候事
一 道光十九年中 欽差兩廣之總督部堂鄧 欽差大臣林